

# （職員の皆様へ） ひ おきの地域内経済循環について

## 1 日置市のお金が 589 億円流出

以下の図は、平成 27 年度の日置市の経済の循環を示したもので、その当時の生産額・支出は 1,221 億円、分配額は 1,810 億円となっています。市外に流れず本市内で留まるお金は地域内経済循環率（以下「循環率」）とされており、その割合は 67.8% であり、単純に金額換算しますと、約 589 億円（1,810 億円 - 1,221 億円）が市外へ流出しています。

さて、この循環率 67.8%は高いのか、低いのか、平均なのか・・・。

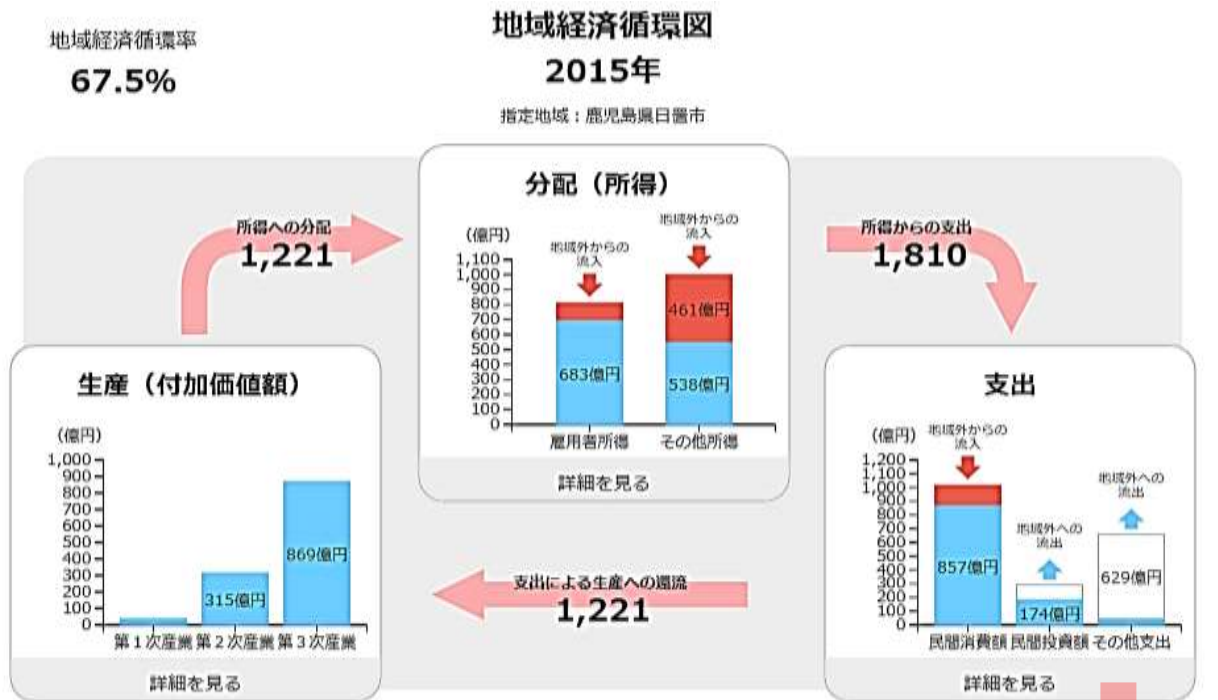


図1 地域経済循環図  
※ RESASより

エネルギー代金の流出  
**約 53 億円**

結果は、以下のとおりであり、県内 19 市の中でも 日置市は、地域内での経済が循環しにくい市 であることがわかります。

表1 県内19市における地域経済循環率

市名	循環率 (%)	市名	循環率 (%)
1 霧島市	95.2	11 指宿市	75.0
2 志布志市	95.0	12 いちき串木野市	73.3
3 枕崎市	91.4	13 阿久根市	72.1
4 南九州市	90.2	14 始良市	71.2
5 薩摩川内市	88.3	15 曾於市	70.1
6 鹿屋市	86.7	16 <b>日置市</b>	<b>67.5</b>
7 垂水市	86.7	17 南さつま市	66.5
8 鹿児島市	85.2	18 奄美市	65.7
9 伊佐市	81.4	19 西之表市	62.1
10 出水市	80.6		

※ RESASより

## 2 県内でも低い日置市の市民所得

市民所得とは、生産活動で生み出された付加価値が市民に分配された額であり、その額を人口で割った数字が市民一人当たりの所得となります。

平成30年度市町村民所得推計報告書によりますと、本市の市民一人当たりの所得は、県内19市の中でも18番目と県内でも低い結果となっており、平成24年度のパナソニックセミコンダクターソリューションズの撤退以降から常態化しています。

実は鹿児島県の都道府県民一人当たりの所得額は、44番目と低く東京都の半分以下となっており、本市は、その中でも低い水準にあることから、全国的にも市民所得が低いまちであることがわかります。

表2 平成30年度の都道府県民一人当たりの所得額

	都道府 県名	所得額 (千円)		都道府 県名	所得額 (千円)
1	東京都	5,415	25	福島県	2,943
2	愛知県	3,728	26	岐阜県	2,919
3	栃木県	3,479	27	新潟県	2,916
4	静岡県	3,432	28	和歌山県	2,913
5	富山県	3,398	29	山形県	2,897
6	茨城県	3,327	30	福岡県	2,885
7	滋賀県	3,318	31	岩手県	2,841
8	群馬県	3,283	32	岡山県	2,769
9	福井県	3,280	33	佐賀県	2,753
10	神奈川県	3,268	34	北海道	2,742
11	山口県	3,199	35	大分県	2,714
12	大阪府	3,190	36	秋田県	2,697
13	山梨県	3,160	37	熊本県	2,667
14	三重県	3,121	38	島根県	2,667
15	千葉県	3,116	39	愛媛県	2,658
16	広島県	3,109	40	高知県	2,644
17	徳島県	3,092	41	奈良県	2,632
18	埼玉県	3,047	42	長崎県	2,629
19	石川県	3,023	43	鳥取県	2,515
20	香川県	3,013	<b>44</b>	<b>鹿児島県</b>	<b>2,509</b>
21	長野県	3,010	45	青森県	2,507
22	京都府	2,983	46	宮崎県	2,468
23	兵庫県	2,968	47	沖縄県	2,391
24	宮城県	2,945		平均	3,317

※ 平成30年度県民経済計算（内閣府）

表3 県内19市の市民一人当たりの所得

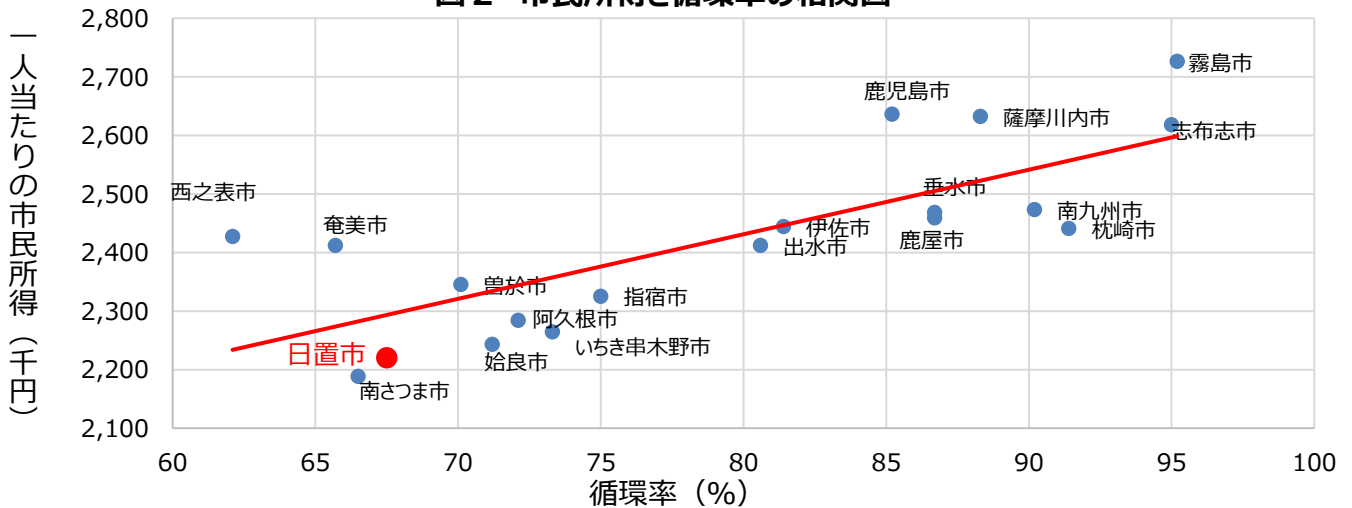
	市名	所得額 (千円)
1	霧島市	2,726
2	鹿児島市	2,636
3	薩摩川内市	2,632
4	志布志市	2,618
5	南九州市	2,473
6	鹿屋市	2,468
7	垂水市	2,459
8	伊佐市	2,444
9	枕崎市	2,441
10	西之表市	2,427
11	出水市	2,412
12	奄美市	2,412
13	曾於市	2,345
14	指宿市	2,325
15	阿久根市	2,284
16	いちき串木野市	2,264
17	始良市	2,243
<b>18</b>	<b>日置市</b>	<b>2,220</b>
19	南さつま市	2,188

※ 平成30年度市町村民所得推計報告書（県統計協会）

### 3 経済循環と市民所得の深い関係性

以下の図は、循環率と市民所得の相関図で、相関係数は0.78となっています。相関係数が0.7以上であると、「強い相関」とされていることから、循環率と市民所得の関係性は深いこととなり、地域で生み出されたお金がこれまで以上に日置市内で循環できれば、まわりまわって市民所得に結びつく可能性が十分にあります。

図2 市民所得と循環率の相関図



### 4 外から雇用所得を稼いでいるが...

本市の通勤者の割合は、以下のとおり県内19市の中でも一番に通勤者の割合が多い市であります。これは、日置市外から所得を稼いでいる割合が多いとも言える結果であり、賃金が高い鹿児島市等から所得を得ることで、市民所得の向上へとつながる可能性もあります。

しかしながら、通勤するがゆえに、近隣であるがゆえに消費もしやすく結果として、地域外へ流出しやすい環境でもあることが考えられます（（1）参照）。

表4 県内19市における通勤者の割合

	市名	通勤者数	通勤者の割合		市名	通勤者数	通勤者の割合
1	西之表市	362	4.4%	11	志布志市	3,275	21.5%
2	奄美市	1,236	6.3%	12	枕崎市	2,205	21.5%
3	鹿児島市	18,077	6.7%	13	南九州市	3,809	21.9%
4	指宿市	2,108	10.4%	14	阿久根市	2,262	22.9%
5	伊佐市	1,422	11.5%	15	南さつま市	3,822	25.4%
6	薩摩川内市	5,593	12.5%	16	曾於市	5,406	31.3%
7	鹿屋市	6,408	13.8%	17	いちき串木野市	4,235	31.9%
8	霧島市	7,844	14.1%	18	始良市	12,282	37.1%
9	出水市	3,851	15.2%	<b>19</b>	<b>日置市</b>	<b>8,374</b>	<b>38.6%</b>
10	垂水市	1,403	19.9%				

※ H27 国勢調査

## 5 職員の皆様へのお願い

現在、企画課においては、このような現状と課題を踏まえまして地域経済を盛り上げる方策として、市長マニフェストなどにに基づき様々な取組について検討しているところであります。

職員の皆様におかれましては、こうした日置市の置かれている地域経済の現状を十分にご理解していただき、その上で職員の皆様ひとり一人において何ができるかを日常生活の行動の中で考えていただきたいと思います。

### 職員の皆様へ

① まずは、意識することから始めましょう。

『これを買ったら、地域経済へどう影響するか？』



② その後、無理のない範囲内でできることを一つひとつ実行してみましょう。

### ちなみに・・・企画課政策推進係での実例 ↓ ↓

▼ **実行例 1** 県外知人へは贈答用に小正醸造・西酒造・原口酒造の焼酎を送ってみました



▼ **実行例 2** 同じ商品でも日置市産があれば優先的に購入しました



▼ **実行例 3** おこづかい事情もあるけど、市内共通商品券は積極的に購入しました

▼ **実行例 4** (妻には内緒で) 電力契約について、「ひおき地域エネルギー」から見積もりを取ってみました

▼ **実行例 5** 休日等には家族や友人を連れて、できるだけ日置市内のお勧めの飲食店やカフェを利用します (その後リピーターになってます)



### ～市長からのメッセージ～

日置市の就業者数は 21,683 人。そのうち市の職員は会計年度任用職員まで含めると 1,000 人を超えるため、市全体に占める割合でにおいても約 5 % を占めることとなります。職員の皆さんが経済循環の原動力だと考えると、皆さんの一歩が非常に大切です。私も日置市内消費 100% を目指して頑張ります。一緒に日置市を買い支えていきましょう！